

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標

- 1) 勉学、部活動、学校行事の三分野すべてに情熱をもって取り組み、しる後に自分の希望する進路に到達する心爽やかで逞しい生徒を育む学校をめざす。
- 2) 「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

この教育目標のもとに、生徒一人ひとりを大切に、地域に根ざし社会を支える人材を育成するという公立高校全日制普通科の理念を、高石高校から発信する。

具体的には、一人ひとりの生徒が

- 主体的に学ぶ楽しさ、達成感を実感できるよう、社会参加への自覚を深め希望進路を切り拓くことができるよう、国際化を、しなやかにしっかりと市民レベルで支えられるよう、
- 学校が生徒を「後押し」する。

あなたのおもいを
あと押し
たかもし

Push
Your Wish
Takaishi

2 中期的目標

1 一人ひとりの生徒が主体的に学ぶ楽しさを実感できるよう、学校が生徒を「後押し」する。

- ① 生徒の自律的な学習習慣の確立を後押しする
 - a) 家庭学習の習慣化を通して生徒自ら学ぶ力を養う ※主要教科の補助教材を希望者に配付し家庭学習の習慣化をはかる ※自習室の利用率前年度比 20% 増を達成する。
※家庭学習習慣化に向け課題提出 100% をめざすよう教員の意識の共有化をはかる。
 - b) 進学講習を組織的に実施する ※進学講習を系統的に組織 ※勉強合宿の実施形態・時期を検討する。
- ② わかる授業、充実した授業への取り組み(授業改善や IT 機器の導入等)により、生徒の学びを後押しする
 - a) 教員が自ら授業改善に取り組めるよう教員相互授業見学を推進する ※相互授業見学に教員の 50% 以上が参加するよう意識の共有化をはかる。
 - b) 教員の授業改善の結果生徒の授業満足度を向上させる ※平成 26 年度生徒向け学校教育自己診断で授業の項目で肯定 60% 以上を達成する

2 一人ひとりの生徒が学校生活において達成感を実感できるよう、学校が生徒を「後押し」する。

- ① 生徒支援体制の確立
 - a) 支援の必要な生徒の実態を把握し、教員の共通理解を促進し支援の充実を図る ※支援の必要な生徒の実態把握と支援方法の研修を行う
 - b) 生徒会活動の活性化、部活動の充実化をはかる ※部活動加入率 70% 以上を維持する
- ② 伝統ある「朝の読書」を通じて、一人ひとりの生徒の知的体験の蓄積をはかり系統的な学習の場とする
 - ※H26 年度: 学年に応じた推薦図書リストを作成、上級生が後輩に推薦する機会を設ける。
 - H27 年度までに、個々の生徒に自分の読書歴を作成させ、学校として蓄積し、学年に応じた推薦図書リストを改訂する。

3 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、学校が生徒を「後押し」する。

- 中堅進学校としての大学進学実績の向上をめざす。
- ① 文系選抜コース(平成 24 年度 2 年から設置)で、実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力深化をめざす国語の授業を展開する
 - ※文系選抜コースの生徒に授業で外部指標のある教材の対策講座を実施し、「外部指標」受験を促す
 - ※学力生活実態調査を活用し、平成 27 年度までに、文系選抜コースと総合コースの協働を図り、高石高校生全体の深化を図る
 - ② 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる
 - a) 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立し、目標達成に最後まで努力する態度を育む。
※平成 26 年度: 3 年間を見据え、学年毎に系統的に取組む進路指導計画を策定する ※平成 27 年度までに、進路指導のガイダンス体制を確立する
※平成 27 年度までに卒業生の全合格数に占める 4 年制大学合格率 65% を達成し、卒業時アンケート「決定進路に満足」の肯定評価 90% 以上を維持する
 - b) 生徒の職業観を育成し夢づくりを支援する取り組みを実施する
※卒業生や社会人の講師による進路講演会を開催する ※平成 27 年度までに自己診断アンケート「進路情報をよく知らせてくれる」を 24 年度比 15% 増に

4 一人ひとりの生徒が社会参加への自覚を深めることができるよう、学校が生徒を「後押し」する。

- ① 将来の自立に向けマナー意識、規範意識を育む
 - a) あいさつのできる生徒を増やし、遅刻数をさらに減らす ※遅刻者数を毎年減少させ平成 27 年度まで前年度比 10% の減少を図る
- ② 生命と人権を尊重し他者を思いやる心を育てる(円滑な人間関係の構築を支援し、情報化社会の匿名性に惑わされない人権を尊重する意識を育成する)
 - b) 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる ※きめ細かい教育相談活動により中退者ゼロをめざす
 - c) 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるために人権 HR の充実を図る ※系統的な人権ホームルームを実施する

5 一人ひとりの生徒が国際化を、しなやかにしっかりと市民レベルで支えられるよう、学校が生徒を「後押し」する。

積極的に国際交流受け入れを行い異文化の多様性を理解する国際感覚とそれに裏付けられた語学力を育成する。

6 一人ひとりの生徒が安全に学校生活をおくれるよう、学校が生徒を「後押し」する。

生徒が心身の健康を増進させることができるよう、清掃活動、安全点検を充実させ安全・清潔な教育環境の形成を図る。
地域と連携して教職員・生徒ともに危機管理意識を高めて津波等に対する危機管理体制を充実させる。

7 一人ひとりの生徒が地域に信頼され、高石高校生としての誇りを持てるよう、学校が生徒を「後押し」する。

- ① 地域交流により地域の信頼に応える ※幼稚園、中学校等との地域交流を継続する
- ② 進学実績の向上、新カリキュラム、部活動、「朝の読書」など学校の特色を地域にアピールする
- ③ 若手、中堅、ベテラン教職員が連携交流し互いの教育力を高め、教育目標の共有化を図り、教職員一丸となった教育活動を推進する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見 (実施: 第 1 回 6 月 7 日、第 2 回 12 月 9 日、第 3 回 2 月 19 日)
<p>生徒・教員アンケートは「よく(あてはまる)」「やや」「あまり(あてはまらない)」「全く」の 4 択で、保護者アンケートは「わからない」を加え 5 択で回答を求めた。生徒の学校・授業・教員への評価について、昨年の同学年との比較(以後、昨年比)・当該学年の昨年との比較(以後、学年進行比)で 0.1 以上の変化を抽出した。昨年比は母集団が異なるので参考。学習面・生活面で高校になじみにくいという「高 1 課題」の傾向は昨年度以上に強まっていると思われる。「13」授業は難しい所もあるが、わかりやすく楽しい⇒全体では昨年比微減(2.47→2.5)だが、3 年(2.67)は 2 年次との学年進行比+0.25。1・2 年で 2.5 以下が気になる[2 年 2.47、1 年 2.32]。「14」教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い⇒全学年とも高い[全体 2.76、3 年 2.63、2 年 2.84、1 年 2.83]。「15」教室は学習に適し、授業は静かで集中している⇒全学年とも高く 2・3 年の学年進行比も上昇、[全体 2.77、3 年 2.6(+0.08)、2 年 3.02(+0.12)、1 年 2.67]。「17」学校は進路の情報をよく知らせてくれる⇒全学年とも高く 2・3 年の学年進行比も大幅増[全体 2.89、3 年 2.99(+0.24)、2 年 3.03(+0.13)、1 年 2.7]でシステムとして機能している。「18」学校では進路に向けた講習がよく行われている⇒全学年とも高く 2・3 年の学年進行比も大幅増[全体 2.79、3 年 2.99(+0.24)、2 年 2.92(+0.13)、1 年 2.52]でシステムとして機能している。1 年は昨年比大幅減(-0.29)で、高 1 課題が強まっていて当該学年だけでなく 1 年次から 3 年間を見据えて教科の計画的取組みが必要。「20」悩みや相談に親身になってくれる先生がいる⇒全体とも高く 2・3 年とも学年進行比大幅増[全 2.61、3 年 2.86(+0.21)、2 年 2.64(+0.15)、1 年 2.39]、「27」先生は問題を見逃さず対応し秘密を守ってくれる⇒全学年とも高く 2・3 年とも学年進行比大幅増[全体 2.7、3 年 2.79(+0.13)、2 年 2.83(+0.14)、1 年 2.52]でシステムとして機能しているが、両問とも 1 年は昨年比大幅減[20: -0.1、27: -0.17]で高校生活になじみにくいという高 1 課題に学校全体で克服のための手立てが必要。「30」45分7限授業は授業に集中でき、講習や部活動も参加しやすい⇒[全体 2.34、3 年 2.35、2 年 2.26、1 年 2.42]と否定回答が上回っているが、保護者の評価[全体 2.93、3 年 2.94、2 年 2.86、1 年 2.93]は非常に高い。生徒の肯定回答(よく・やや)と否定回答(あまり・全く)の割合は、3 年: 45.9%⇒54.0%、2 年: 44.2%⇒55.7%、1 年: 49.7%⇒50.3%で 1 年は約半数が肯定的に回答している。他に前回より 0.04 以上増の項目は「2」学校は生徒の意見をよく聞いてくれる⇒2.56(+0.06)、「5」校長先生の考えや話はよくわかり先生はお互いに協力し合っている⇒2.52(+0.06)、「8」地震や火災などの災害時、学校でどう行動するか具体的に知らされている⇒3.29(+0.04)、「10」朝の読書では、みんなしっかりと本を読んでいる⇒3.04(+0.04)で、防災・朝読の取組みは評価されている。</p>	<p>第 1 回: ①部活動は活発であるが、目立った特色がない②国際交流や英語資格検定等をもう少し③ベネリ外だけでなくスペシャリストの育成も</p> <p>第 2 回: ①45 分 7 限の補完への質問②国際交流と防災の取組み確認③広報とイメージについて④生徒の積極性を伸ばす取り組みを更に</p> <p>第 3 回: まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流(海外の高校の訪問や長期留学生受け入れなど)と防災(ケスごとに「てんでに逃げる」避難訓練実施)の取組が大きく変わったことが実感できる。4 5 分 7 限授業は木曜日に 3 時間の補完時間を設け、少ない曜日の補完という形で運用しているが、補完を特定教科に使うことも検討してはどうか。 ・最近の高石高校の入試の高倍率や文化祭来場 1800 名広報の成果。特徴的なイメージより、過ごしやすいうち学校として認められているようだ。7 年前の定員割れを契機に中学や塾を訪問した成果が出てきた。入学生徒の家庭環境が良くなったが、高校卒業後グローバル化の日本で、生徒は困難に打ち勝っていかねるのかと感じる。社会に出て活躍する生徒は、元気も必要だ。しんどいことから逃げない状態(一般入試を受験する・運動部に入部するなど)へモチベーションを作ることがポイント。今までは異なるグローバル化つまり「生きる力」をつけさせることを高石高校はめざしてはどうか。女子の制服にスラックスは当初からあるが周知が足りない。 ・昨年度に引き続き遅刻が減少し、メロディチャイムの鳴り終わりで授業開始できるのは素晴らしいが、遅刻減少や授業改善については、まだ余地があるように思える。興味深い授業なら遅刻したり寝てしまったりすることもないのでは。謙虚な気持ちで取り組んでほしい。生徒が先生に質問しやすい雰囲気のようなが、生徒の積極性をいかに育むかが学校教育全体の課題である。自習室の活用などをテーマに生徒自身が考え取り組むことで、生徒の積極性を伸ばせるのではないかと。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒が主体的に学ぶ楽しさを 実感できるよう「後押し」する。	わかる授業、充実した授業への取り組みにより、生徒に自律的な学習習慣を確立させる	①生徒の自律的な学習習慣の確立を後押しする a)家庭学習の習慣化を通して生徒自ら学ぶ力を養う b)進学講習を組織的に実施、勉強合宿を再検討する ②わかる授業、充実した授業により、生徒の学びを後押しする a)教員が自ら授業改善に取り組めるよう教員相互授業見学を推進する b)教員の授業改善の結果、生徒の授業に関する意識を向上させる ※再来年の教育課程再編に向けワークグループ設置(3回会議実施) 45分7限での「朝読」と総合学習の連携も検討	①a)各教科補助教材「学習サプリ」を作成、自習希望者に配付、学習習慣を確立させる ・生徒の授業に対する取り組み強化へ教員の意識の共有化(追認審査で課題提出 100% +授業中の退室者減) ・校内での自律学習に、 2・3 年生は自習室、 1 年生は図書室を利用させ、自習室利用率を前年度より 20% 増を達成する b)・3年間の進路指導計画に基づき各学年団が中心となって補習講習を系統的に実施する ・勉強合宿の実施時期等を再検討し、進路にむけた生徒支援を特に 2 年生から強化する ②a)わかる授業をめざして教員相互の授業見学に 50% 以上の教員が参加するよう意識づける b)平成26年度生徒向け自己診断アンケート「授業はわかりやすい」を 4 段階の 3 以上に	①a)英国で自習補助教材作成希望者配付、数は未実施→カリキュラム再編で学校設定科目化検討へ【○】 ・課題提出 100% →追認判定不合格のほとんど課題提出不良者【△】 ・授業集中強化策による授業中の短時間保健室利用者、審査中のトイレ退室者の減少(課題:正確な退室者数の把握+授業改善と連携した「授業中寝させない」取組み)【○】 ・生徒の自律的な学習習慣の確立:自習室利用者数 12 月まで前年度比 10.5% 減、(課題:名前記入を嫌がる生徒対策、放課後教室で自習する 3 年生多し)【△】 b)各学年の補習講習の体系化【○】 ・勉強合宿の中止(課題:時期変更を検討:春→夏)【△】 ②a)教員自らの授業改善の取組み:相互授業見学者倍増、(課題:授業見学者の感想義務化)【○】、 ・若手教員技量向上へ H25 年度から取組継続→新三(新採3年目まで)研修の体系化【◎】 ・授業アンケート結果平均の上昇 H25 ② 3.03 → H26 ② 3.13 【◎】 ・自己診断アンケート(生徒)「授業はわかりやすい」 2.47 (肯定 50.3%) ・昨年比 0.03 減(1.3% 減)「教え方工夫の先生多い」 2.76 (肯定 66.6%) ・昨年比 0.01 減(0.03% 減)【△】
2 生徒が学校生活において達成感を実感できるよう「後押し」する。	生徒支援体制を確立し、社会人としての基礎教養を身につけさせる	①生徒支援体制の確立 a)支援の必要な生徒の実態を把握し、教員の共通理解を促進し、支援の充実を図る b)家庭とのきめ細やかな意思疎通をはかるため、担任をフォローする体制を充実させる c)生徒会活動の活性化、部活動の充実化を図る d)本校で実施できる国際交流の機会を増やす ②「朝の読書」を一人ひとりの生徒の知的体験の蓄積をはかり学校として系統的な学習の場とする	①a)支援の必要な生徒の実態把握と支援方法の研修を行う b)生徒情報の共有を図る時間帯を確保する c)部活動加入率 70% 以上の維持 d)語学研修だけでなく本校での国際交流の機会を増やす ②・学年に応じた「朝の読書」リストを作成、生徒に推薦し、生徒向け自己診断アンケート「朝の読書をしっかり」を更に 0.2 ポイント向上へ ・生徒に自分の読書歴を作成させ蓄積し、各学年とも毎年推薦図書リストを改訂する。	①a)要支援生徒理解の教育相談研修 12/8 実施、教員 63% 出席、昨年比 23.3% 増【◎】 b)生徒情報共有を図る時間帯昨年同様【△】(課題:成績担当者会議のあり方を進級規定見直しとリンクさせる) c)部活動加入率 75% 以上(一年生 78%)【◎】 ・課外活動時間確保に45分7限授業導入【◎】自己診断評価:生徒 2.34 (全体 46.7% 、1年 49.7% 、2年 44.2% 、3年 45.9%)、保護者 2.93 、教員 2.6 d)長期留学生(デンマーク)引受け(6月末～10ヶ月)、短期留学生(NZ)引受け(4月3週間)、台湾の高校の学校訪問引受け(5月)、高石姉妹都市ロミタ市訪問団(米)受入れ(8月)、豪州語学研修(8月)参加者増(H25 :5人→ H26 :10人)【◎】 ②「朝の読書」用推薦図書「高石の 100 冊」図書委員会作成【○】(課題:学年ごとのリスト作成)
3 生徒が希望進路を切り拓くことが出来るよう「後押し」する。	最後まで努力する態度を養い、中堅進学校としての大学進学実績の向上をめざす	①文系選抜コース(平成 24 年度2年から設置)で、実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力深化をめざす国語の授業を展開する ②目標達成に最後まで努力する態度を養い、最後まで挑戦する生徒を増加させる a)生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立する b)生徒の職業観を育成し夢づくりを支援する取り組みを実施する	①文系選抜コースの生徒に授業で外部指標のある教材の対策講座を実施する ②a)進路実現のため平成26年度から実施する「学力生活実態調査」を軸に 3 年間を見据えた進路指導計画を策定する b)卒業生や社会人の講師による進路講演会を開催する ③卒業時アンケート「決定進路に満足」の肯定評価 90% 以上を維持する ④卒業生の進学就職全合格数に占める4年制大学合格率 65% を達成する(平成 25 年度 60%)	①文系選抜コース外部指標教材受験者漢検 155 人英検 38 人(課題:英国の連携、漢検選抜コースほぼ全員、英検は漢検の翌週で受験者数に差)【◎】 ②a)進路指導體系化:3年間進路指導計画策定(課題:具体的なガイダンスシステムの実施)【○】 ・学力生活実態調査結果の扱いについて担任研修1回実施(課題:結果検討会の常設)【○】 b)社会人講師によるキャリア講演会を人権講演会で実施(課題:身近な卒業生による講演会未実施)【○】 ③卒業時アンケート「決定進路に満足」の肯定評価 H26:89% → H25:91% 【◎】 ④卒業生の進学就職全合格数に占める4年制大学合格率 60.78% 【○】
4 生徒が社会参加への自覚を深めるよう「後押し」する。	マナー意識、規範意識、人権を尊重し他者を思いやる心を育てる	①マナー意識、規範意識を育む ・あいさつのできる生徒を増やし、遅刻数をさらに減らす ②a)生命と人権を尊重し他者を思いやる心を育てる b)教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる c)円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるために人権HRの充実を図る	①遅刻者数を前年度比 10% の減少を図る。 ②a)きめ細かな教育相談活動により中退者ゼロをめざす。 b)教育相談委員会と学年担任団の連携強化/学年主任と教育相談委員長の情報共有時間を毎学期 1 回実施 c)学年進行とともに系統的に深化する人権ホームルームを企画・実施する	①遅刻者数 12 月まで前年度比 16.83% 減(欠席者数も前年度比 5.3% 減12月まで)【◎】 ②a)中学から課題有で入学した生徒一人退学【△】 b)学年主任と教育相談委員長の情報共有は該当生徒対象に不定期で実施(課題:定期実施)【○】 c)人権職員研修・人権講演会を投げ込み実施(課題:人権教育の系統化と対象生徒への個別対応)【○】
5 生徒が地域に信頼され誇りを持つよう、学校が	学校の特徴を地域にアピールする	①地域交流により地域の信頼に応える ②進学実績の向上、新カリキュラム、部活動、「朝の読書」など学校の特徴を地域にアピールする ③学校HP更新頻度をあげる工夫をする	①部活動・学校行事等を通じて幼稚園、中学校、地元自治会等との交流を継続する ②広報委員会の主導で中学校・塾の訪問、説明会の参加への教員の参加を促し、広報活動を継続する、生徒の 1 年間の活動記録「高石の軌跡」(イヤブック)を発行し中学校等に配布する ③学年の広報担当が学年行事等取材・学校HPの記事を作成するなどにより、学校HPの更新頻度をあげる ④PTA/同窓会と連携して創立 40 周年に向け準備する	①・高石市連携地震津波避難訓練実施継続:クラスごとに「てんでに」避難目標まで歩く→生徒全員に水 500ml ホルルの配付と次年度へ保管、訓練後のアンケート「避難先がわかる」 87.6% 前年度比 37.86% 増【◎】 ・留学生 2 人を地元幼稚園に派遣/地元自治会・中学校で吹奏楽部・フォークソング部演奏会/書道部の高石市フェスティバル参加【◎】 ②・中学校・塾訪問・説明会昨年回数を維持(H26 実績:中学校 83 校、塾 60 塾訪問、説明会・相談会 15 回【◎】)+泉大津市立誠風中学校で1月28日出前授業実施・広報活動:(継続)文化祭外来者昨年比 3.1% 増【◎】(新規)年間生徒活動記録「 H25 高石の軌跡」作成・配布【◎】③学校説明会のエントリーをHPから可能に【◎】、校長ブログ更新頻度昨年並み【○】、 ④・創立40周年に向け準備委員会立上げ(PTA・同窓会正副会長で会議設定・同窓会組織化策を提案実施(文化祭で同窓会ブース開設)【◎】